

同形異義語における中国語と日本語の対照研究

——中国語教育の視点から——

王 承 云

一. はじめに

筆者は中国人の留学生として日本で日本語教育を受けながら、日本人向けの中国語教育を経験してきた。

中国語と日本語は、共に漢字で書き表されている。そのために、日本語を母国語とする者が中国語に接したとき、日本語と同じ漢字の中国語に親しみを感じる。同様に、筆者のような中国語を母国語とする者は日本語に接したときにも、中国語と同じ漢字の日本語に親しみを感じる。この場合、日本語としての発音と中国語としての発音は異なっているが、意味は同じものが多い。そうして、意味が同じものについては、それだけ学習の負担が軽くなるわけである。

しかし、中日両国語の漢字の意味は、長い歴史の経過と共に、ある程度かけ離れた存在になってしまっている。日本語を母国語とする学習者は、中国語の漢字に親しみを感じるだけでなく、それを日本語として理解しようとする傾向がある。その結果、漢字について既に身につけている知識が、現代中国語と対応していない部分では誤用・誤解を招きやすいものとなっている。従って、日本人学習者のためには、同じ漢字を用いているという有利点を生かしつつ、誤り易い点と注意すべき点を明らかにする必要がある。本論においては以上のような点を明らかにすることを目的とする。そこで、同形異義語における中国語と日本語の対照研究から始めることにした。

二. 本論の対象と研究の方法

日中両国語を対照研究するについては、さまざまな方面からアプローチし得るが、本論では前述の趣旨によって、同形異義語問題に焦点をしばることにした。

対照研究をする前に、まず基礎作業の一つとして日本語の漢字二字熟語を調査し、各語例について中国語との異同を検討した。調査にあたって用いる語例は、『現代国語辞典』三省堂の見出し語のうち漢字二字の熟語を取りだした。(三字語或いは四字語における同形語も認められるが極めて少ないので、今回は扱わないことにした。) 辞典の記述に全面的には頼らないよう、特に生きている言葉の意味は、時代と共に移り変わるものであるから、辞典の外に、現在日本で出版されている25冊の中国語教科書(『中国語ワールド』1996年荒屋勸等)を使用した。取りだした語例は次に以下の辞典によって確かめ、その中国語としての意味を記入した。

香坂 順一 大東文化大学 『中国語大辞典』(上下)角川書店(1994)

尚永 清 主幹編集 『中日辞典』北京商務印書館・小学館共同編集(1992)

倉石武四郎 『岩波中日辞典』 岩波書店 (1980)

中国人である筆者からみて、日常生活及び文化学習上、最も常用される語彙を選んだものである。辞典にのっていない少数語例(※印)については、前記25冊の最新教科書や、日常言語生活で使われる場合を参考として、筆者がその中国語の意味を記入した。

三. 中日同形異義語の対照研究

1. 同形語の概念

同形語に関する先行研究としては、大河内康憲氏編の『日本語と中国語の対照研究論文集』(下)(1992年)がある。これによれば、同形語とは、一言でいえば「政治、文化」のように日・中で字面が同じ単語(常用漢字であるか、簡体字であるか問わない)であるが、「山、人、大、小」など一字で音訓いずれにも使われるものは含まない。「文化、経済、克服、普通」のような二字(ときには三字以上)の字音語で日本語の中では、「漢語」とも呼ばれるものを言う。

一口に「同形語」といっても、意味の同じ場合もあれば、違う場合もある。すなわち、同形同義と同形異義である。

2. 非同形語

同形語以外の漢字語は形態と意味の観点から対応させて観察するとき、異形同義と異形異義の二つがある。ここでは、これらを非同形語と呼ぶことにする。さて、日中両国語の漢字語を以上の観点から機械的に分類すると次の四つになる。ここで、漢字固有の形・音・義の中、音についての対照は一応捨象し、形・義に焦点を絞って考えることにした。

- (A) 同形同義
- (B) 同形異義
- (C) 異形同義
- (D) 異形異義

(A)は日本人がそのまま理解してもいい単語である。たとえば、「感冒」「餃子」「帽子」などは中日両国でまったく同じ形で同じ意味をもっている。従って、日本人が中国語を学ぶときそれほど問題にならない。

また(D)は形と意味を対応させた時、形式的に生じた分類であって、実際には全く無意味で問題にならない。(字も異なり意味も異なるものを対応させることは、実際にはできないことである。)

従って(B)と(C)の場合を問題とする。

(B)は日本語の意味として理解してはいけな単語、日本人が誤解する単語である。例えば、「手紙」は日本語ではいわゆる「てがみ」であるが、中国語では「トイレットペーパー」のことである。「新聞」は日本語ではいわゆる「しんぶん」であるが、中国語では「ニュース」のことである。「汽車」は日本語では「きしゃ」の意味であるが、中国語では「自動車」のことである。

(c)は日本人にとって分かりにくい、または、類推すれば分かるけれども、日本語では通用していない語形、すなわち日本語の「手紙」は中国語で〔信〕、日本語の「新聞」は中国語で〔報紙〕であり、日本語の「汽車」は中国語では〔火車〕である。つまり同形異義と異形同義は互いに表裏の関係にあつて切り離すことができないことがわかる。このような問題について、本研究では同形異義語の面から詳しく検討することにした。

3. 同形異義語の対照

同形異義語について前で述べたような方法で調査した。調査にあたって用いる語例は、主として次の辞典から引用した。

市川 孝 等編 『三省堂現代国語辞典』1988

松村 明 等編 『旺文社国語辞典』改訂新版 1986

尚永 清 主幹編集 『日中辞典』北京商務印書館・小学館共同編集 1992

まず、上記の辞典で漢字二字熟語をすべてチェックした。そのうち、中国人である筆者からみて、中国語にも熟語ないし語の組み合わせが存在して、しかも中国語の意味と異なっているものをできるだけ抜きだした。さらに、それらの日本語の意味を岩波書店『広辞苑』新村出編、第四版という他の辞典で確認し、また日本人の国語研究者にも適宜校閲してもらった。

以上のように、抜き出した語例を、次に

香坂 順一 編集 『中国語大辞典』(上下)角川書店 1994

尚永 清 主幹編集 『中日辞典』北京商務印書館・小学館共同編集 1992

倉石武四郎 編 『岩波中日辞典』岩波書店 1980

でたしかめ、その中国語としての意味を記入する。辞典にのっていない少数語例については、最新教科書や日常言語生活で使われる場合を参考として、筆者の判断でその中国語の意味を記入した。

もっとも、両国語の意味の対照という作業は大変難しい。同形異義語といっても、厳密にニュアンスの違いまで考えると、皆この同形異義的な側面も持ち合わせているわけである。

ここで、日本語の中の漢字の和語と漢語について説明しておく必要がある。すなわち、訓読みと音読みで意味が異なる場合、もしもそのいずれかの意味が中国語と異なる場合は、それは同形異義語に含めることにする。言い換えると訓読みするか音読みするかを無視するということである。中国語を学ぶ日本人にとっては、同じ漢字なのに、意味が違っていることを判断することは、極めて難しいことである。そこで、そのような視点を採用するのである。

四. 同形異義語のリスト

以下の表で、見出し語例の上のルビは、日本語の読み方を示し、それを基準として五十音順に配列した。各語例に日本語としての意味を略して、(中)として中国語の意味を示した。本来が取

り上げたのは、簡体字を用いる中国語である。ただし、見出し語を中日両国語の対照という立場を重視し、簡体字を無視することにした。(中国語訳は※印の語を除いて、前記香坂、尚永、石倉氏編の中日辞典による。)

- 愛想あいそう—(中) 思い込む、(考えることがすきだ)……に夢中になる。
- 愛人あいじん—(中) 夫または妻、配偶者。
- 曖昧あいまい—(中) 男女関係のあやしいこと。
- 赤身あかみ—(中) 裸。身ひとつ、独りぼっち。
- 新手あらて—(中) 一般にまだその仕事にたずさわらずに控えているもの。就職したばかりのひと。
- 暗算あんざん—(中) ひそかにたくらむ、陰謀をたくらむ。
- 安心あんしん—(中) (気持ち)が落ち着く、(気持ち)を落ち着ける。
- 安息あんそく—(中) 安らかに眠れ、哀悼を表す言葉。
- 意見いけん—(中) 不満、批判、異存。
- 一位いちい—(中) 一人の敬称、一人様。
- 一部いちぶ—(中) 機械などの台数を表す助数詞。
- 一味いちみ—(中) ひたすら、一途に、どこまでも。
- 一面いちめん—(中) 一方、ある部門。二つの動作を同時に行うことを表す。
- 一気いっき—(中) ぐるになる、ひとしきり。
- 一刻いっこく—(中) 時間の単位で、一時間の四分の一、十五分のこと。
- 一体いったい—(中) 全体、一律に。
- 一旦いったん—(中) 一朝、一日。……して以来。……した以上。
- 一定いってい—(中) ある程度の、適当な、ほどよい。かならず、きっと、どうしても。
- 一天いってん—(中) 一日、ある日。
- 石頭いしあたま—(中) 石、岩。
- 上前うわまえ—(中) 前に出る、前の方に進み寄る。
- 遠慮えんりょ—(中) 先々までの深い考え、遠い将来を見通した考え。
- 応酬おうしゅう—(中) 交際する。(客に) 応対する。応接する。
- 大方おおかた—(中) 気前がよい、金離れがよい。おっとりしている、上品である。
- 大家おおや—(中) みんな、みな。名家、有名な作家や芸術家。
- 開眼かいがん—(中) 珍しいものや見たこと。美しいものを見て見聞を広めること。
- 改行かいぎょう—(中) 転業する。くら替える。
- 会合かいごう—(中) 合流する、いっしょになる、落ち合う。
- 外人がいじん—(中) 縁もゆかりもないひと、赤の他人。局外の人、グループ外の人。
- 快走かいそう—(中) 急いで行く。速やかに出かける。
- 顔色かおいろ—(中) 色、色彩。顔料、染料。

- かくご 覚悟—(中) 自覚する, 目覚める。
- がくちやう 学長—(中) 同窓に対する敬称, 先輩。
- かそく 仮装—(中) わざと……ふりをする, 装う。
- かっき 客気—(中) 遠慮する, 謙遜する。礼儀正しい。挨拶する。
- がっしゆく 合宿—(中) ルームメート, 同じ部屋で住むこと。
- かっちやく 活着—(中) 生命のあるものが生きている, 元気だ。
- かりゆう 下流—(中) 下品な, 低級な, 卑しい。
- かんびやう 看病—(中) 診察する, 治療する。
- きしや 汽車—(中) 自動車, 車。
- きみ 気味—(中) かおり, におい。
- ききゆう 急用—(中) 急ぎの必要, 差し迫った入用。
- くちうら 口裏—(中) 口の中。
- くふう 工夫—(中) (費やされる) 時間。暇, とし。技量, 腕前。
- くよう 供養—(中) 生活の面倒をみる, 扶養する, 養う。
- けいり 經理—(中) 企業や商店の責任者, 経営者, 支配人。
- ※けが 怪我—(中) 私のせいだ。私のせいにする。
- けつこう 結構—(中) 構成, 仕組み。(建築の) 組み立て, 構造。
- けつじつ 結実—(中) 丈夫だ。
- けつそく 結束—(中) 終わる。終わりを告げる。終わらせる。打ち切る。けりをつける。
- げらく 下落—(中) ゆくえ, ありか。落下する, 落ちる。
- けんえつ 検閲—(中) 観閲する。
- げんけい 原形—(中) 本来の姿, 正体。
- けんとう 検討—(中) 自己批判をする, 反省する。
- こうえん 香煙—(中) 祖先を相続すること。タバコ。
- こうぎ 講義—(中) (授業の) 教材, 内容。学生に配布するプリント。
- こうきゆう 講究—(中) 気をつける, 重んずる。注意すべき点, 凝る入れる。
- こうけい 光景—(中) 状況, 様子, 経済, 生活状態。ころ, くらい。
- こうこう 高校—(中) 大学レベルの学校の総称。
- こうさく 工作—(中) 働く, 仕事をする。職業。
- ごうどう 合同—(中) 契約。
- こくそ 告訴—(中) 告げる, 知らせる, 教える。
- ごしょう 後生—(中) 若者, 将来性の豊かな若者をさす。若々しい。
- さぎやう 作業—(中) 宿題, 練習問題。
- さくゐ 作為—(中) ……とする, ……にする。
- さゆう 左右—(中) 前後, ぐらい, 約。どうせ, いずれにしても。

- 指摘してき—(中) 非難する。しかる。
 熟人じゆくじん—(中) 知人, よく知っている人, 顔なじみ。
 叔母しゆくほ—(中) (父の弟) おじの妻。
 出産しゆくさん—(中) 産出する, 生産する。
 主人しゆくじん—(中) お客さんを接待する人, (客) の反対語。財産, 権利の所有者。
 出世しゆくせ—(中) 生まれ出る。出生する。発生する, 現れ出る。
 出走しゆくそう—(中) 家出をする。出奔する。
 出来しゆくたい—(中) (内から外に) 出てくる。現れる, 出現する。顔を出す。
 出力しゆくつよく—(中) 力を出す, 精を出す。
 上場じょうじょう—(中) (役者や選手が) 出場する。登場する。
 小心しやうとう—(中) 注意する。気をつける。
 正体しやうたい—(中) 正字, 楷書, 表音ローマ字の印刷体。
 上代じやうだい—(中) (一家一族の) 先代, 祖先。
 小刀しやうとう—(中) ナイフ。
 小人しやうにん—(中) 人徳が高くない人, 器量が小さい人。
 小名しやうみやう—(中) 小さいときの名前。幼名。
 ※正目しやうめ—(中) 直視する, まともに目を向ける。
 丈夫じやうぶ—(中) 夫, 主人。
 正法しやうぽう—(中) 死刑を執行する。
 処理しよりに—(中) 処分。
 進級しんきゅう—(中) 昇任する。
 心中しんじゅう—(中) 心の中。
 薪水しんすい—(中) 給料。
 新聞しんぶん—(中) ニュース, 珍しい話。
 親身しんみ—(中) みずから, 身をもって, 自分で。
 心痛しんつう—(中) ひどくかわいがる。惜しむ。
 水平すいへい—(中) 水準, レベル, 程度。
 生气せいき—(中) 腹が立つ, 怒る。
 ※世話せわ—(中) 世間話。
 前座ぜんざ—(中) 舞台近くの座席。
 先生せんせい—(中) (敬称) 様, さん。人の夫, 自分の夫の称。
 ※全天ぜんてん—(中) 一日中, 全日。
 ※全都ぜんと—(中) 全部の, すべての, すっかり。
 饞別せんべつ—(中) 送別の宴を開く。はなむけをする。
 送還そうかん—(中) 物を返す。返還する。

- 相好そうごう—(中) 仲がよい、親友。
 造作ぞうさく—(中) わざとらしいことをする。きざである。
 送信そうしん—(中) 手紙を送り届ける。手紙をだしに行く。
 大事だいじ—(中) 重大なできごと、重要な事柄。
 対象たいしょう—(中) 結婚、恋愛等の相手。フォアンセ、恋人。
 大名だいみょう—(中) 敬称、盛名、ご高名。
 高潮たかしお—(中) 高まり。(小説や映画などの)クライマックス。
 打球だきゅう—(中) 球を打つ。球技をする。
 ※他見—(中) 他人の見解、ほかの見方。
 打算ださん—(中) ……するつもりである。……する予定である。
 多事たじ—(中) 余計なことをする。
 多大ただい—(中) どれほど、どれぐらい。
 単位たんい—(中) 機関団体部門、勤め先。
 暖気だんき—(中) (温水または蒸気による) 暖房。暖房設備、スチーム。
 单元たんげん—(中) (集合住宅で) 一つの階段を共有する家のまとまり。
 痴情ちじょう—(中) ひたむきな愛情、ひとすじに想い続ける愛情。
 知人ちじん—(中) 人をよく知り、よく理解する。
 地方ちほう—(中) 場所、ところ。
 調子ちょうし—(中) 音楽の節回しや、話し声の音の高低。
 長者ちやうじや—(中) 人望のある人。
 痛恨つうこん—(中) ひどく憎む。
 ※通夜つうや—(中) 夜通し、一晩中。
 丁寧ていねい—(中) ねんごろに言いつける、繰り返し言い聞かせる。
 手紙てがみ—(中) ちり紙、トイレット・ペーパー。
 手軽てがる—(中) そっと扱う。
 出口でぐち—(中) 口に出して言う。港を出る、出港(する)。輸出(する)。
 手心てごころ—(中) たなごころ。手の中、勢力の及ぶ範囲。
 手下てした—(中) 指導下、支配下。手元、懐具合。手を下すとき。
 同行どうぎょう (tong hang)—(中) 同業である、領域が同じである。
 当家とうけ—(中) 一家の主となる、家事の切り盛りをする。
 東西とうざい—(中) もの、品物、商品。人や動物を指す。
 同宗どうしゅう—(中) 同族。一族。
 当面とうめん—(中) 面と向かって、じかに。
 遠見とおみ—(中) 先々までの見通し。
 年頭としがしら—(中) 多くの年、長い年月。時代、時勢。

- 特急とっきゆう—(中) 特に急いでいる。
 難聴なんちよう—(中) (言葉が粗野で) 聞き苦しい。
 認識にんしき—(中) 見知る, 知っている, 見たことがある, 見て覚える。
 念書ねんしょ—(中) 本を読む, 読書する。(学校で) 勉強する。
 配合はいごう—(中) 力を合わせる, 歩調を合わせる(こと), チームワーク。
 破綻はたん—(中) (衣服の) ほころび。(喩) しっぱ, 馬脚, ぼろ。
 発火はつか—(中) 怒り出す, かっとなる。
 発現はつげん—(中) (研究・考察の結果) 発見する, 見いだす。気づく, 見つける。
 破門はもん—(中) ドアを壊す。(サッカーやハンドボールなどで) ゴールをする。
 春雨はるさめ—(中) 春, 静かにしとしとと降る雨。
 飯店はんてん—(中) 旅館, ホテル。
 卑下ひげ—(中) 下品である。
 必須ひつす—(中) 必ず……しなければならない, 必ず……せよ。
 逼迫ひつぱく—(中) 強制する, 無理強いをする, 責めたてる。
 ※一角ひとかく—(中) 物一切れ, 四分の一, 六分の一。中国の貨幣で, 一元の十分の一。
 一口ひとくち—(中) (発音やアクセントなどが) 精粹で, 混じり気のない。くちぶりがはっきりして
 いるさま。
 人様ひとさま—(中) 人間らしさ。
 一手ひとて—(中) ある種の技能, または腕前。計略。
 皮肉ひにく—(中) 肉体。
 敷衍ふえん—(中) いいかげんにあしらう, お茶を濁す。どうにか持ちこたえる。
 不善ふぜん—(中) ……するのが下手である。ばかにならない, 相当なものだ。
 平易へいい—(中) 気質または態度が穏やかである, 温和である, 親しみやすい。
 平穩へいおん—(中) 穏やかである, 落ち着いている, 安定している。
 平生へいぜい—(中) 一生, 終身。従来, いままでずっと。
 ※別送べつそう—(中) お見送りは結構です, どうぞそのまま。
 便宜べんぎ—(中) 値段が安い, (労力によらざる) とく。ちっぽけな利益。
 勉強べんきよう—(中) 無理に強いる, 強制する。不十分である。
 勉励べんれい—(中) 励ます, 激励する。
 弁論べんご (辯論)—(中) 論争する。
 放心ほうしん—(中) 安心する。信用する。
 飽満ほうまん—(中) ふくよかな, 豊かである, 充実している, 満ち満ちている。
 没頭ぼつとう—(中) 先が見えない, 終わりが見えない。
 ※本当ほんとう—(中) もともと……(す)べきである。
 麻雀マーじゃん—(中) スズメ。

まんじゅう 饅頭—(中) 具の入らない中国式蒸しパン, マントー。

みかた 見方—(中) 正方形, 平方。

みずかき 水杯—(中) 湯呑み, コップ。

みやげ 土産—(中) 地方の物産, 名物。

※夢中—(中) 夢の中, 睡夢中。

むり 無理—(中) 道理がない, 理不尽である, 不当である。

めいち 明知—(中) 知っていながら, 承知の上で。

めいはい 明白—(中) 分かる, 理解する。物わかりがよい, 賢明である。

めいわく 迷惑—(中) 惑う, 迷う, 戸惑う, 惑わす。

もんく 文句—(中) 語句または段句。

※薬缶—(中) 葉を煎じる, 入れる缶。

やくそく 約束—(中) 拘束する, 制限する。抑えること。

やさい 野菜—(中) 食用になる野生植物。山菜。

ようい 用意—(中) 意図, 考え, ねらい, つもり。

よういん 要員—(中) 重要な人員。

ようけん 要件—(中) 重要書類, 重要な条件。

ようじ 用事—(中) 権利を握る。感情や意地によって事を行う。

ようじん 用心—(中) 了見, 意図, 下心。

りくつ 理屈—(中) 理に欠ける, 筋が通らない。

りこう 利口—(中) 口達者, 口上手。

りょうり 料理—(中) 処理する, 切り盛りする。

るす 留守—(中) (旧) 皇帝が都を離れるときに大臣に命じて都を守らせること。

五. 終わりに

以上述べたように, 一口に同形異義といっても, 程度によって次のように整理されることがわかった。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">a. 完全に意味の違う場合b. 同じ意味を持つが, 中国語にはほかの意味がある場合c. 同じ意味を持つが, 日本語にはほかの意味がある場合d. 同じ意味を持つが, それぞれにほかの意味がある場合 |
|--|

以上全体として(a)完全に意味の違う場合が最も多いこと。次に(b)が多いことが分かった。さらに(c)の語例が(d)より多いことである。

それらを一覧表にすると, おおよそ次のようになる。(なお, 一覧表にする際, 判定に疑問があ

って、統計に加えなかったものもある。)

		計
a	愛想 愛人 赤身 暗算 安心 一面 一体 一天 石頭 上前 応酬 大方 大家 開眼 改行 会合 外人 快走 顔色 覚悟 学長 仮装 客気 合宿 活着 看病 汽車 気味 急用 口裏 工夫 供養 經理 怪我 結構 結実 結束 下落 検閲 原形 検討 講究 光景 高校 工作 合同 告訴 後生 指摘 熟人 叔母 出産 出世 出走 出来 出力 上場 小心 正体 上代 小刀 小名 正目 丈夫 正法 処理 進級 心中 薪水 新聞 親身 心痛 世話 前座 全天 全都 銭別 74% 送還 相好 造作 送信 大事 大名 高潮 打球 他見 打算 多大 痴情 知人 痛恨 通夜 丁寧 手紙 手軽 手心 手下 当家 同宗 当面 遠見 年頭 念書 破綻 発現 卑下 必須 逼迫 一角 人様 皮肉 敷衍 平生 別送 便宜 勉強 勉励 弁論 放心 飽満 没頭 本当 麻雀 饅頭 見方 水杯 無理 明知 明白 迷惑 薬缶 約束 野菜 用意 要員 要件 用事 用心 理屈 利口 料理 留守	74%
b	曖昧 安息 意見 一位 一部 一気 一刻 一旦 一定 下流 香煙 講義 作業 左右 水平 生氣 先生 対象 多事 暖気 单元 地方 18% 出口 東西 難聴 認識 配合 発火 破門 飯店 一口 一手 不善 平易 平穩	18%
c	新手 遠慮 小人 調子 特急 春雨 土産 夢中 文句	5%
d	一味 作為 主人 単位 長者	3%

上述の考察の結果から、次の三点が、日本人向けの中国語教育の視点から重要であると考えられる。

- 1) 「同形」であっても「異義」であることがある。
- 2) 「同形」「同義」と思われても、意味の類似、意味のずれ、つまり中心的意味に微妙な相違があることがある。
- 3) 「同形」「同義」であっても、対象が違えば、使用しないことがある。

参考文献

1. 相浦 昇「日中対照語彙論」『日本語と日本語教育』一語彙編一国立研究所 (1976)
2. 中沢希男『漢字・漢語概説』教育出版 (1978)
3. 林 淑珠「日本語と中国語の同漢字語の対照」国語学研究 21号 (1981)
4. 飛田良文 呂玉 新『日本語・中国語意味対照辞典』(1987)
5. 岡部謙治『この中国語はなぜ誤りか』光生館 (1990)
6. 大河内康憲『日本語と中国語対照研究論文集』(上, 下) (1992)
7. 遠藤紹徳『中・日翻訳表現文法』—中文日訳・日文中訳の原点とテクニック—バベル・プレス (1995)